

福祉の視点から見た服飾文化の形成について  
— 日欧服飾文化の比較と教育プログラムの開発 —  
Formation of Clothing Culture from the Welfare Perspective  
— Development of an Educational Program and Comparison of Japanese and  
European Clothing Cultures —

斉藤 秀子<sup>\*1+</sup>, 丸田 直美<sup>\*2+</sup>, 菊池 直子<sup>\*3+</sup>, 加藤 登志子<sup>\*2+</sup>  
Hideko Saito<sup>\*1+</sup>, Naomi Maruta<sup>\*2+</sup>, Naoko Kikuchi<sup>\*3+</sup> and Toshiko Kato<sup>\*2+</sup>

\*1 山梨県立大学人間福祉学部 山梨県甲府市飯田五丁目 11-1  
Faculty of Human and Social Services, Yamanashi Prefectural University  
5-11-1 Iida, Kofu-shi Yamanashi 400-0035 Japan

\*2 文化ファッション大学院大学ファッションビジネス研究科  
Graduate School of Fashion Business, Bunka Fashion Graduate University

\*3 岩手県立大学盛岡短期大学部  
Morioka Junior College, Iwate Prefectural University  
+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化女子大学  
Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture  
Bunka Fashion Research Institute, Bunka Women's University

**Abstract :** In our studies we have been developing an educational program in welfare, comparing Japanese and Swedish clothing cultures from the welfare perspective. In 2009 we investigated sales of clothing for the elderly, makeup services and so on in Sweden. We also researched having classes on welfare in our fashion creation education, discussing how to put our ideas into practice.

## はじめに

本研究では、福祉に関わる日本とスウェーデンの服飾文化の比較、および福祉に関わる教育プログラムの開発を行っている。平成 21 年度においては、スウェーデンにおける、高齢者のための衣服の販売、メイクアップサービス等について調査した。また、ファッションクリエイション教育において、福祉に関わる教育プログラム開発のための研究授業を行い、その方法について検討した。ここでは、これらの研究の進捗状況について報告する。

## 研究方法

本年度は、スウェーデンにおける調査、および福祉に関わる研究授業を行った

### 1. スウェーデンにおける福祉に関わる服飾文化の現状調査

平成 21 年 9 月 7 日～13 日に申請者および、分担者 2 名が、スウェーデン、ストックホルムおよびその近郊

---

\*1) saito@yamanashi-ken.ac.jp

を訪問、調査を行った。調査先は次のとおりである。

- 1) 高齢者・身障者のための衣服のイージーオーダー Åsa Stenmark Design
- 2) 福祉関係機器および衣服販売店 URIFORM
- 3) 地域での高齢者のためのファッションショーと衣服販売 (Stockholm Spånga)
- 4) 市内ミーティングポイントでの高齢者インタビュー、高齢者のための衣服販売
- 5) 高齢者ディケアセンターでのメイクアップサポートの視察、インタビュー
- 6) 車いす利用の若年男女各 1 名の衣服についてのインタビュー

## 2. 福祉に関わる教育プログラム開発のための研究授業

平成 21 年 9 月～平成 22 年 1 月において、文化ファッション大学院大学、「アパレル人間工学Ⅱ」の授業において、福祉に関わる教育内容を取り入れ、研究授業を 15 回にわたり行った。

この授業の特徴は、ファッションクリエイション教育を受けている学生が、身体障害のある場合の衣服の開発を行うというものである。本授業の受講者は 12 名、被服製作の対象者は、東京障害者職業能力開発校の学生 7 名 (男性 4 名、女性 3 名) であった。授業開始にあたり、本授業の主旨を説明し合意を得て、授業を進めた。各授業については授業案を作成し<sup>1),2)</sup>、授業の前後にはアンケートを実施した。

## 結果及び考察

### 1. スウェーデンにおける福祉に関わる現状調査

下記 6 件の調査対象につき、次の調査結果が得られた。

#### 1) 高齢者・身障者のための衣服のイージーオーダー Åsa Stenmark Design

- ・スウェーデンおよびデンマークの 8 軒のブティックから受注
- ・製品は同社デザイナー、アーサ氏によるもの
- ・衣服製作は外国籍の男性 1 名、女性 2 名による
- ・約 2 週間で注文者の手元に届く
- ・コンセプトは衣服の外観は一般の衣服と同様であること
- ・高齢者、身障者のための様々の工夫がある

#### 2) 福祉関係機器および衣服販売店 URIFORM

- ・注文販売による衣服が展示、販売
- ・食事用エプロン販売、パジャマ、下着は販売無

#### 3) 地域での高齢者のためのファッションショーと衣服販売 (Stockholm Spånga)

- ・年金受給者協会の月 1 回会合の直後、同協会と衣服訪問販売会社のタイアップで実施
- ・ファッションショーモデルは高齢者自身で、訪問販売会社社員によるショーの進行
- ・ショー終了後に、会場後部のワゴンの衣服の販売実施
- ・本訪問販売は、社員 1 名が車一台で衣服を運搬、展示、ショーの衣服の準備、ショーの進行、販売を請け負うフランチャイズによるもの
- ・ショーのモデル依頼は年金受給者協会会長による

#### 4) 高齢者のためのミーティングポイントでのインタビューと高齢者のための衣服販売店



図 1 Åsa Stenmark Design の工夫されたジャケット



図 2 高齢者によるファッションショー

- ・困っている点は日本と同様にサイズ、特に袖やズボンの長さ
  - ・衣服販売店では、ストレッチ布による衣服、下着、靴下も販売
- 5) 高齢者デイケアセンターでのメイクアップサービス(Ekbacken Dementia Day Care Solbacken)
- ・デイケアセンター内での有料の女性のヘアセット、男性の散髪のサービス
  - ・若年の時の状況、これまでの習慣に合わせたサービスを実施
- 6) 車椅子利用の若年男女各1名の衣生活についてのインタビュー
- ・男性:脳性麻痺のため電動車いすを使用、衣服についての特段の工夫はなく、車いす用のレインコートを使用
  - ・女性:一般の車いすで、車いすに対応した衣服の工夫、前見頃が短い上着を選択、ズボンは後ろ股上を長くする、上肢運動時の上着のずり上がりを防ぐ工夫を実施

なお、本調査結果については、平成21年11月、第61回日本衣服学会において、申請者により発表された。また、平成21年12月に開催された縫製研究会において申請者により講演がなされた。

## 2.福祉に関わる教育プログラム開発のための研究授業

表1に研究授業のスケジュール

表1 研究授業スケジュール

を示す。全15回の授業のうち、前半の1/3(5回)は、福祉に関する現状や問題点などに加えて、工夫された衣服デザイン例を紹介することによって、衣に関する福祉の現状を理解させ、クリエイション活動対象者訪問のための準備を行った。後半の2/3(10回)で身体障害のある対象者へのクリエイション活動を行なったが、そのうちクリエイション活動対象者施設の訪問(グレー)を3回(初回のみ2コマ)行った。1回目は施設見学と対象者へのインタビュー、2回目は仮縫い、3回目は完成した衣服の試着会と評価とした。

授業数	日	曜日	授業内容
1	9/25	金	本授業の内容についての説明
2	10/1	木	国際福祉機器展に参加
3	10/9	金	高齢者、障害者の衣服に関する現状や問題点について説明
4	10/23	金	高齢者、障害者のための衣服の工夫事例を紹介し、デザイン発想を促す
5	11/13	金	クリエイション活動対象者訪問準備
6・7	11/16	月	クリエイション活動対象者を訪問①(施設見学、インタビュー)
8	11/20	金	副資材についての説明とパターン製作
9	11/27	金	仮縫い
10	11/30	月	クリエイション活動対象者を訪問②(仮縫い、補正等打合せ)
11	12/4	金	本縫い
12	12/11	金	本縫い
13	12/18	金	本縫い
14	12/21	月	クリエイション活動対象者を訪問③(試着会、評価)
15	1/8	金	本授業の反省と自己評価

12名の履修学生がグループに分かれ7名の対象者の衣服を製作した。製作した作品はニット製品を中心にジャケット3着、パーカー、ケープ、トレーナー、パンツ各1着であった。

対象者の体型や障害の種類などが異なり、研究授業として一律の流れで進行することが困難であったことなど課題は残ったが、履修者からは貴重な経験ができたという声もあり、一定の成



図3 第3回訪問(試着会)終了時

果が得られたと考えられる。

### おわりに

平成 21年度においては、スウェーデンにおける、高齢者のための衣服の販売、メイクアップサービス等について調査した。また、ファッションクリエイション教育において、福祉に関わる教育プログラム開発のための研究授業を行い、その方法について検討した。その結果、スウェーデンにおける福祉に関わる衣生活の現状について、調査結果を日本衣服学会、縫製研究会において公表することができた。また、ファッションクリエイション教育における研究授業15回を実施し、福祉に関わる教育プログラム開発の第1歩を踏み出し、その問題点を明らかにすることができた。

### 謝辞

スウェーデンにおける調査でご協力下さった数多くの皆様、通訳の純子ステイアー氏、また、東京障害者職業能力開発校の堀江和子教務課長、研究授業の衣服製作対象者の皆様に厚く御礼申し上げます。

### 文献

1. 大竹美登利(編):新版 テキストブック 家庭科教育, 学術図書出版社, pp154-181(2003)
2. 斉藤秀子、内田幸子、雨宮邦子:CAD とロックミシンを用いたチュニック型カットソー作成による被服製作教育の試み - 介護福祉士養成のための題材として - 山梨県立大学 人間福祉学部 紀要 Vol.3, pp61-74(2008)